ららぽーと海老名

LaLaport Ebina

No. 12-038-2015作成
新築
物販／飲食

発注者	三井不動産株式会社
設計･監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社

カテゴリー

A. 環境配慮デザイン　B. 省エネ・省CO2技術　C. 各種制度活用　D. 評価技術／FB
E. リニューアル　F. 長寿命化　G. 建物基本性能確保　H. 生産・施工との連携
I. 周辺・地域への配慮　J. 生物多様性　K. その他

まちとつながる「ライフスタイルセンター」

「まち」へと広がる賑わい

本計画は、小田急小田原線・相模鉄道本線・ＪＲ相模線の3路線が乗り入れる「海老名駅」と連絡デッキで直結する駅前複合大型商業施設である。駅前開発のあるべき姿を考え、閉じたハコ型開発ではなく、開口部やテラス等を駅側に設け、開かれた賑わいを感じられるデザインとした。賑わいは新たに開発される駅周辺へと延びるプロムナードに対しても積極的に展開していく。全体外装デザインは白を基調とし、見え隠れする差し色としてオレンジを軒裏や奥まった壁に用いて、シーンの変化を演出。3階・4階テラスには緑とパラソルが賑わい要素として加わる。同時に開発されたプロムナードと呼応した賑わい空間を創出するために低層部は配色や店舗からの滲み出しに工夫をしている。また、店舗出入口との関係に配慮しながら、プロムナードの街路樹の配置について市と相互に調整を行い、建物と歩道が一体となってそぞろ歩きができる空間づくりを実現した。

南西側外観

プロムナード側外観

３階テラス

人が集うことで生まれる「シーン」をデザインする

海老名駅西口土地区画整理組合によるまちづくりルールに基づき、「賑わい」「交流」「快適」の主要な柱に対して内部・外部の空間のデザインを進めた。それらを実現するため、時間消費型ＳＣとして、随所にオリジナルデザインのファニチャーを設け、植栽もあわせてデザインすることで「シーン」づくりを行っている。動線のポイントとなる南北のアトリウムには自然光を生かしたアトリウム空間を設けている。ゆったりと人が集い、出会いやつながりがもてるような「ライフスタイルセンター」の実現を目指している。

南アトリウム

北アトリウム

２階モール

メインモール

まちづくり工事との連携

駅前再開発の核となる当計画は周辺道路などの都市インフラ工事と同時に進められた。全周に渡る市の道路工事と綿密に調整を行い、搬入動線などの工事計画、それに合わせたデザイン決定を行い「街開き」の厳しいスケジュールを遵守することができた。

プロムナード側ファサード

設計担当者

建築：網干和、渡辺健吾、児玉賢吾、塚原勝行、田中英輔、池上晃司、大塚健次／構造：藤永直樹、谷田貝健、池間典一／設備：高木淳、斧田浩一、上田泰史／電気：高木淳、鈴木秀佳

建物データ

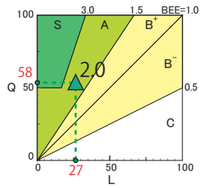
所在地	神奈川県海老名市
竣工年	2015　年
敷地面積	32,941㎡
延床面積	121,127㎡
構造	S造
階数	商業棟：地上4階、駐車場棟：地上6階

省エネルギー性能

PAL削減	23 %
ERR(CASBEE準拠)	34 %
$LCCO_2$削減	24 %

CASBEE評価

Aランク
BEE=2.0
2010年度版
自治体提出



主要な採用技術(CASBEE準拠)

Q2. 3.	対応性・更新性（テナント入替に対応したスケルトン＆インフィル）
Q3. 2.	まちなみ・景観への配慮（駅前への賑わいの創出）
Q3. 3.	地域性・アメニティへの配慮（プロムナードに向けた空間づくり）
LR1. 2.	自然エネルギー利用（トップライト利用）
LR1. 3.	設備システムの高効率化（コージェネレーションシステムの導入）
LR2. 1.	水資源保護（節水型機器、井水利用）

※本事例シートおよび記載内容の二次利用を禁止します